

令和七年度

國學院大學

文学塾

夏期オンデマンド配信

※過去に実施した文学塾の授業録画を
夏休み期間限定で配信いたします

國學院大學文学塾とは…

高校生のための新たな学びの場です。
伝統ある國學院大學文学部ならではの
専門性の高い内容で、
知的好奇心の強い皆さんの期待に応えます。
学問の最先端を、ぜひ体験してください。

【日本文学科】

◆ 小野小町・紫式部・和泉式部と
中世の文学

◆ 新しさとは何か

― 和歌の技法へ本歌取りの方法―

【史学科】

◆ 豊臣政権をめぐる通説的理解と新視点

↳ 秀吉の弟秀長の存在を中心に

◆ 景観から歴史を読み解く

― 歴史地理学という発想―

【中国文学科】

◆ 中国文学にあらわれた処世観と自然

― 張衡「帰田賦」を中心に―

【外国語文化学科】

◆ 文法とは何か

【哲学科】

◆ 哲学は絵画のごとく

― ルネサンス人文主義再考―



視聴無料

WEB事前申し込み制 申込締切日：7月31日(木)

※講座内容および申込方法は、大学ホームページをご覧ください。



もっと日本を。もっと世界へ。

【お問い合わせ先】國學院大學文学部資料室

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28

TEL : 03(5466)4813 E-mail: bun_siryu@kokugakuin.ac.jp



國學院大學

●全7講義が無料で視聴可能です。皆様のお申込みをお待ちしています！●

小野小町・紫式部・和泉式部と中世の文学

岩崎雅彦 教授 (日本中世文学・近世文学/古典演劇)

小野小町・紫式部・和泉式部の三人は平安時代を代表する和歌や物語の作者であるが、中世には三人にまつわる様々な説話や伝承が生まれてくる。説話の中で小町は老女となり、死後も骨となって歌を詠む。紫式部は『源氏物語』を書いて読者の心を惑わせた罪のために地獄に堕ちる。和泉式部は赤子の時に捨てた息子と再会し、親子と知らずに恋愛関係となる。室町時代にはこうした説話や伝承が能や御伽草子などの題材となって作品化された。

中国文学にあらわれた処世観と自然

—張衡「帰田賦」を中心に—

鈴木崇義 准教授 (中国古典文学)

人は、人との関わりなしに生きることは恐らくできないでしょう。しかし、人との関わりが煩わしく感じられる時もあります。社会の枠組みを窮屈に感じることもあるでしょう。危機に陥ることもあるかもしれません。そんな時、自分はいかに生きれば、あるいは、どこに行けばよいのでしょうか。その答えの一つとして、張衡という人は「帰田賦」を著しました。本講義では「帰田賦」を端緒として、詩人たちが何に憧れ何を楽しみとしたのかを考えてみたいと思います。

豊臣政権をめぐる通説的理解と新視点

～秀吉の弟秀長の存在を中心に～

矢部健太郎 教授 (日本中世史/戦国・織豊期の政治史)

豊臣政権に関する歴史的叙述は、研究者や歴史作家などによって数多くなされてきた。しかしながら、二十世紀までの通説には徳川時代の史料や歴史観によるバイアスがかかった部分も多く、近年では新たな視点による研究も提出されている。果たして、真の豊臣政権の姿とはどのようなものであったのか。2026年のNHK大河ドラマ「豊臣兄弟！」の主人公豊臣秀長に焦点をあてて、通説と新説の相違点やそれぞれの妥当性について考えてみたい。



哲学は絵画のごとく

—ルネサンス人文主義再考—

岡本源太 教授 (美学)

ヨーロッパで多彩な芸術が新しく花開いたルネサンス。この時代、哲学もまた「人文主義」(ヒューマニズム)の名のもとに、人間と世界についての新たな理解をもたらしました。しかもルネサンスの「万能人」たちが象徴するように、このとき哲学は芸術と分かちがたく結びついていました。この講義では、ルネサンスの哲学者たちの言葉と芸術家たちの絵画を照らし合わせながら、そこに描き出された新しい人間観と世界観を見ていきます。



新しさとは何か

—和歌の技法〈本歌取り〉の方法—

荒木優也 准教授 (和歌)

和歌の技法のひとつに〈本歌取り〉があります。有名な和歌の語句の一部を取り入れ、新たな歌を詠作する方法です。ただし、このように書くと、盗作や二番煎じだと考える人もいるかもしれませんが、たしかにそういった歌もあります。しかし、〈本歌取り〉が成功した歌の場合は違います。奥行きもあり新しさのある和歌が誕生するのです。本講義では、〈本歌取り〉の歌を解釈しながら、新たな文化を創造するためには何が必要かを考えてみます。

文法とは何か

水口学 教授 (理論言語学・生物言語学・統辞論)

「文法」と聞いて学校で教わる英文法や古典文法を想像してつまらないものであると思う人もいるかもしれません。本講義では言語学の視点から文法を考察し、文法に対する新たな見方を提供したいと思います。学校で教わる英文法が実は科学的な文法研究の第一歩になることから始めて、文法がヒトであれば誰もが生まれながらに持っている自然物であることを明らかにします。そして文法が実際に生み出しているものを紹介し、科学的な文法研究へと誘いたいと思います。

景観から歴史を読み解く

—歴史地理学という発想—

川名 禎 准教授 (歴史地理学・近世都市空間の研究)

歴史地理学と聞いて何を思い浮かべるだろうか。多くの人にとっては馴染みのないこの学問も、実は明治期から続く伝統ある学問であった。景観に刻まれた歴史を読み解くこと、それは歴史地理学が担ってきた重要な役割である。近年学問が多様化するなか、歴史地理学の存在意義が問われている。歴史地理学がもつ独自の発想は、必ずや既存の学問に新たな視点を提供する筈である。土地の履歴が語りかけるもの、それは現代を生きる我々へのメッセージである。

【 配信期間 令和7年8月4日(月)～8月29日(金) 】